

「全鍍連」 2018年 10月号 理事長のよこがお

岐阜県メッキ工業組合 理事長 石垣 彰寛 (株丸石工業所 代表取締役)

「異常気象・線状降水帯に注意」



平成30年は寒い冬から始まりました。

例年だと1月2月の最低気温はせいぜい-4℃前後なのに、今年の最低気温は-9℃！こんな日が何日も続き、本当に凍りつく寒さで、1月から3月迄の朝は配管の凍結との戦いでした。

3月末から急に暖かくなって、梅が咲いたかと思うと直ぐ桜が咲き始め、あっという間に春爛漫となりました。新緑の木々も深い緑になるのに時間がかからなかったような気がします。私は、庭木の剪定もしていますが、今年の木々の勢いにはびっくりさせられました。冬が寒かった分、内に秘めた木々のパワーが一気に出てきたのでしょうか。

6月、梅雨に入りいつものように雨が降り、梅雨明けまでこのまま平穏に過ぎて行くと思っていました。

ところが、7月7日夜より降り出した雨は午後10時頃、長良川上流に線状降水帯がかかり避難情報等がメディアで発令されていました。津保川は長良川の支流に当たりますが、そのころは大して増水も無く普通に構えていました。

暫くして午前2時30分、サイレンとともに避難情報が発令され、川の様子を見に行きましたが、まだ水位は上昇しておらず3メートルほど下に見えました。

ところが、線状降水帯が東に移動し津保川の上流で1時間に100mmと言う豪雨をもたらしたのです。そして午前3時30分、工場の裏を流れる津保川が氾濫し、あと数センチで工場建屋内に濁流が流れ込むところまで水位が上がって来て、今まで見たこともない濁流が不気味な音を立てながら流れるのを見て、これは大変な被害になると覚悟をしました。しかし、朝になり被害が無かったことに少し安堵したのも束の間、対岸や上流では家屋の倒壊、床上・床上浸水等、多く人が被災したとの情報が入りました。翌8日は日曜日でしたので、町内の被災されたところの泥だし、水に浸かった家具や畳の持ち出し等、復旧作業のお手伝いことができました。

社員の中にも床上浸水となった家が2軒あり、仕事を休んでの復旧作業となりました。私も2日間でしたが泥だしのお手伝いをさせていただきました。床下や家の周りにたまった泥は本当に扱いにくいもので、復旧作業は本当に大変でした。



(工場裏を流れる氾濫した津保川)

同じ日に中国地方でも甚大な洪水災害があり、多数の人の命、家屋に被害があり、多くボランティアの人たちによる復旧作業に頭が下がる思いでした。その後も東北、北海道など各地で線状降水帯が発生し被害をもたらしています。本当に線状降水帯には注意が必要です。

7月から8月にかけて被災した方々の先の見えない復旧作業も続く中、一向に雨が降らない過酷な酷暑の夏がやってきました。

最高気温39℃～40℃と言う日が毎日のようにほぼ1か月も続き、普段でも暑いメッキ工場内で従業員が熱中症にならないか心配をする毎日でした。これも異常気象なのでしょうか？

いつもは、こういった災害や気象のニュースを見ても対岸の火事のように思う自分でしたが、災害を目の当たりにして考えを改めなくてはと痛感させられました。

終わりに、これらの災害で尊い命を無くされた皆様の御冥福をお祈り申し上げるとともに、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。